

平成 27 年第 1 回定例会
戦略企画雇用経済常任委員会
所管事項説明資料

◎所管事項説明

- | | | |
|---------------------------------------|---|--------|
| (1) ものづくり産業に対する支援について… | 1 | 別添 1 |
| (2) 雇用施策の推進について… | | 4 |
| (3) 三重県中小企業・小規模企業振興条例に基づく取組について… | 1 | 0 |
| (4) 首都圏営業拠点「三重テラス」について… | 1 | 4 |
| (5) 「食」の産業振興について… | 2 | 0 |
| (6) 「みえ産業振興戦略」について… | 2 | 4 |
| (7) 三重県観光キャンペーンについて… | 2 | 5 別添 2 |
| (8) 「みえ国際展開に関する基本方針」の見直しについて… | 2 | 7 |
| (9) - 1 台湾との連携・交流について（新北市「平溪国際天燈祭り」参加 | | 3 0 |
| (9) - 2 台湾との連携・交流について（副知事の台湾訪問）※当日配布 | | |
| (10) 包括外部監査結果に対する対応について … | 3 | 4 |
| (11) 各種審議会等の審議状況の報告について … | 3 | 7 |
| (12) 三重県景気動向調査中間報告について … | | 別添 3 |

平成 27 年 3 月 9 日

雇用経済部

(1) ものづくり産業に対する支援について

1. 「みえ航空宇宙産業振興ビジョン」(案) について

(1) ビジョン策定の目的

三重県において航空宇宙産業を自動車産業、電機・電子産業、石油化学産業に続く産業の柱のひとつとして振興を図るため、本県が強みを発揮できる分野を生かし、中長期的に取り組むべき方向に関する産学官の具体的な行動を提示するため、本ビジョンを策定します。

(2) めざすべき姿

三重県が海外との「ゲートウェイ」となって、海外のパートナーとの産学官交流を一層深化させることにより、県内で、世界に通用する多くの航空宇宙産業人材が育つとともに、こうした人材が企業の核となりチャレンジすることで、素材から加工、組立、生産設備、サービス分野に至る幅広い企業による航空宇宙産業への参入を促進し、本県における航空宇宙産業のすそ野が拡大することをめざします。

<具体的な目標>

目標項目	平成31年度	平成36年度
県内で新たに航空宇宙産業へ参入・事業を拡大した企業数(延べ)	30社	70社

(3) 具体的な取組方向

<人材育成>

中部地域の航空宇宙産業の専門機関と連携して、現場技能者や専門技術者の育成を行うとともに、海外の専門機関と連携して、グローバル人材の育成に重点を置いた取組を進めます。また、将来を担う人材に航空宇宙産業の魅力を伝える取組を進めます。

目標項目	平成31年度	平成36年度
・国内機関と連携した人材育成にかかる講座等の参加者数(延べ)	500人	1,000人
・海外機関と連携した人材育成にかかる講座等の参加者数(延べ)	500人	1,000人
・学生を対象とした啓発講座への参加者数(延べ)	1,000人	2,000人

<参入促進>

航空宇宙産業は厳しい品質管理が求められるため、必要とされる認証取得を推進するとともに、既存サプライヤーからの受注獲得を推進するため、商談機会の増加につながる取組を進めます。

目標項目	平成31年度	平成36年度
・航空宇宙産業にかかる認証を取得した企業数(延べ)	15社	30社
・国内外の商談会への参加者数(延べ)	100社	200社

<事業環境整備>

航空宇宙産業は投資回収に長い期間を要するなど、民間投資が進みにくいことから、公的機関による支援制度を活用します。また、中部地域で集積が低い分野の底上げを図るため、装備品、MR O等の分野における国内外サプライヤーの誘致を進めます。

目標項目	平成31年度	平成36年度
・新たに設備投資、研究開発を実施した企業数（延べ）	20社	40社
・県外から本県へ進出した企業数（延べ）	5社	10社

2. ものづくり技術高度化支援等

県内中小企業・小規模企業が持つ特徴や強みを生かすため、技術力向上や販路開拓支援に取り組んでいます。

(1) メイド・イン・三重ものづくり推進事業（県補助金）

（補助限度額 上限1,000万円、補助率1/2以内）

中小企業・小規模企業が戦略的に取り組む新製品や新技術の開発に対し、工業研究所及び（公財）三重県産業支援センターと役割分担しつつ補助金の交付を行いました。不採択となった申請企業に対しても、次回の採択につながるよう、工業研究所が技術的な助言などのフォローを行っています。

【採択実績】 8件

(2) 工業研究所の取組

中小企業・小規模企業が抱える技術的な課題を解決するため、各企業の業態や段階に応じて、技術力向上の支援や企業間連携の促進に取り組んでいます。

具体的には、地域や地域外との連携担当者を設置し、きめ細かく企業巡回・相談を行う「町の技術医」としての機能を発揮しているほか、依頼試験や機器開放等による支援や、基礎講座、出前講座による人材育成、企業との共同研究を実施しています。

平成26年度活動実績（いずれも平成27年2月末時点）

- ①技術相談：3,053件
- ②依頼試験：5,434件
- ③機器開放：1,769件
- ④中小企業技術者研修講座：18講座、延べ209名
- ⑤共同研究：39件

(3) 川下企業との商談会

ものづくり中小企業・小規模企業の販路開拓を支援するため、大企業等（川下企業）との出前商談会を9回開催し、年度中にあと2回開催します。今年度は、自動車、電気電子などの産業分野に加え、航空機やネット専業商社など、新たな分野の川下企業を開拓し、2月調査時点で、のべ137社の中小企業等が参加し、見積りや試作依頼といった新たな取引のきっかけが204件生まれ、11件の新規商談が成約しました。

みえ航空宇宙産業振興ビジョン概要(案)

1 策定趣旨

三重県において航空宇宙産業を自動車産業、電機・電子産業、石油化学産業に続く新たな産業の柱のひとつとして振興を図るため、本県が強みを発揮できる分野を生かし、中長期的に取り組むべき方向に関する産学官の具体的な行動を提示するため、本ビジョンを策定する。

2 ビジョン策定の背景

(1) 航空宇宙産業の特徴

- 更新を含めた民間航空機の新規需要機数が今後20年間で約2倍になると予測される世界的な成長産業
- 投資回収期間が長いなど参入が難しい産業であるが、すそ野が広く、技術波及効果が大きい産業

(2) 中部地域の現状

- 中部地域は、大手重工メーカーを中心に航空宇宙産業に携わる企業が集積しており、事業所数、従業員数、生産額において、全国の約5割を占めている。
- 各県の特徴
(愛知県) 国内屈指の研究人材を輩出する大学や、JAXAの研究開発拠点などによる研究開発機能に強み
(岐阜県) VRテクノセンターや中日本航空専門学校を中心とした技能者の人材育成機能が充実
(三重県) 大手メーカーの主力工場やオンリーワン技術を持つ中小企業が立地

(3) 中部地域の課題

- <短期的な課題> 増産への対応(人材確保、設備投資等)、コストダウン要請への対応
- <中長期的な課題>
 - ・航空機産業に関わる幅広い分野において人材(技能者、グローバル人材、金融・サービス人材等)が不足
 - ・効率的なサプライチェーンの構築に遅れ
 - ・厳密なトレーサビリティに対応できる品質保証体制整備の遅れ
 - ・装備品、MRO等分野の集積が低い

(4) 本県のポテンシャル

- 自動車産業等で培われた高い技術を持つ企業や人材
- 海外の航空宇宙産業の中心地とのネットワーク

3 めざすべき姿

- ・ 三重県が海外との「ゲートウェイ」となって、世界に通用する多くの航空宇宙産業人材が育つ
- ・ 幅広い企業の参入を促し、本県の航空宇宙産業のすそ野が拡大する

<目標> 県内で新たに航空宇宙産業へ参入・事業拡大をした企業数(延べ)
H31年までの5年間で30社、H36年までの10年間で70社の増加を目標とする
※「みえ航空宇宙産業研究会」において目標達成に向けた進行管理を行う

4 ビジョン推進に向けた柱立て

(1) 国内外の専門機関等と連携した人材育成

本県と国内外の専門機関とのネットワークを活用して、航空宇宙産業を支える人材を育成する。

(2) 自動車関連企業等の集積を生かした参入促進

自動車産業等の異業種で培った高度な技術力や人材を生かし、航空宇宙産業への参入を促進する。

(3) 既存サプライヤーのさらなる強化

設備投資や研究開発等を促進するとともに、新たな生産体制の構築により、更なる強化を図る。

(4) 装備品、MRO等の分野における国内外サプライヤーの誘致及び参入促進

中部地域での集積が低い装備品等の分野において、サプライヤー誘致や参入促進を図る。

5 産学官の具体的な取組方向

地域経済の活性化につなげる地域再生計画による国の財政支援等を活用しながら、本ビジョンの実現に向けて取り組む。

《 人材育成 》

(1) 国内の専門機関と連携した人材の育成

- 生産技術中核人材の育成
航空宇宙関連の人材育成実績がある機関と連携し、生産現場管理を任せられる「中核人材」を育成する。
- 現場技能者・専門技術者等の育成
構造組立、専門設計ソフト、非破壊試験、一貫生産能力、グローバルプロジェクトリーダーなどの航空宇宙関連の専門技術等を備えた人材を育成する。

(2) 海外の専門機関と連携した人材の育成

- 海外留学の推進
海外連携先への留学と企業インターンシップを組み合わせることで、産業界が求める人材を育成する。
- 海外専門機関等の人材育成プログラムの導入
海外連携先の実践的な人材育成プログラムの実施により、技術力、語学力を備えた人材を育成する。

(3) 将来の航空宇宙産業を支える人材の育成

ボーイング社等と連携し、小中学生等を対象とした航空宇宙産業の魅力伝えるイベントを実施するとともに、県内の工業高校生等を対象とした製造現場見学会等を実施することで、将来の人材確保をめざす。

《 参入促進 》

(4) 航空宇宙産業特有の高度な認証取得(JISQ9100、Nadcap等)の推進

異業種からの参入障壁である高度な認証の取得を推進する。

(5) 既存サプライヤーからの受注獲得の推進

- 新規参入等にかかる情報提供(セミナー等)
航空宇宙産業の特性や動向について、専門家を招いた講演会や、大学等による出前講座を開催する。
- ビジネスマッチングの実施(国内/海外)
既存サプライヤーのニーズを聞き取り、これに対応できる企業とのマッチングを行う。また、海外経済ミッション等を活用して、欧米企業へ直接セールスを行う。

《 事業環境整備 》

(6) 事業拡大に向けた設備投資、研究開発の推進

一貫生産体制の構築や新たな展開をめざす企業の設備投資や研究開発を推進する。

(7) 装備品、MRO等の分野における国内外サプライヤーの誘致及び参入促進

中部地域で集積が低い分野を中心に、国内外で実績のあるサプライヤーの誘致に取り組むとともに、県内企業とのマッチングを図る。

(2) 雇用施策の推進について

1 ステップアップカフェについて

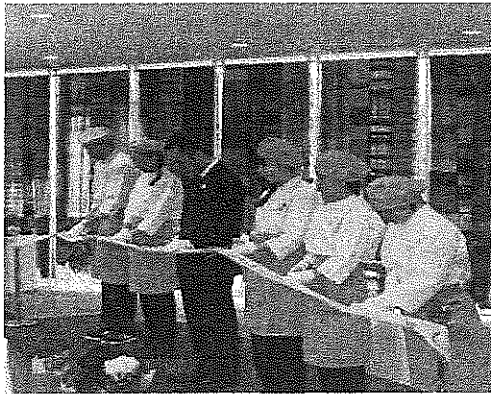
(1) 運営状況等について

ステップアップカフェ「Cottic菜」は、平成26年12月24日、三重県総合文化センター男女共同参画センターフレんテみえ1階にオープンしました。

当日は、関係者の参加を得て、オープニングセレモニーを行うとともに、トーク&ライブ、交流イベント、商品の展示販売を行いました。

オープニングイベントには、約700人が来場され、「Cottic菜」には、約190人の来店者があり、好調なスタートを切ることができました。

また、平成27年1月末現在の運営状況は次のようになっており、今後は、事業の進捗及び県民や障がい者の意識の変化の把握に努め、企業や県民の取組の推進につなげていきます。



オープニングセレモニー



オープニングイベント トークショー

・来店者数

4, 119人 1日平均 約140人

・障がいのあるスタッフの雇用状況

8人〔身体障がい者1人、知的障がい者3人、
精神障がい者4人〕

・職場実習等の状況

特別支援学校からの職場実習生を受け入れ、本年4月にステップアップカフェにて1人採用予定

・商品の展示販売

17事業所42点の商品の展示販売

(2) ステップアップカフェの取組の成果をはかる指標設定の考え方と項目(案)について

① 指標設定の考え方

県民や企業関係者に成果を分かりやすく伝えられるよう、「アウトプット」、「アウトカム」の視点から指標を設定し、『障がい者の一般就労への支援』、『障がい者を支える地域全体のステップアップ』に取り組み、「障がい者がいきいきと働き」「当たり前で働ける社会」の実現をめざします。

	《事業への参画の機会をはかる指標》	《県民や障がい者の意識の変化をはかる指標》 ※アンケート調査、ヒアリング等で把握	《「めざす姿」実現に向けた進捗度をはかる指標》
カフェ事業	(1)就労体験した障がい者数	(4)就労体験する障がい者の意識の変化	(7)法定雇用率達成企業の割合 (8)障がい者雇用に対する企業の理解度
ブラッシュアップ事業	(2)商品の展示販売や商談会などに参加した事業所数	(5)事業所の意識の変化	
コーディネート事業	(3)コーディネート事業の参加者数	(6)参加者の意識の変化	

② 指標と数値目標について

目標項目 (1)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
就労体験した障がい者数	2人	8人	9人	10人	11人	12人

目標項目 (2)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
商品の展示販売や商談会などに参加した事業所数 (累計)	17事業所	25事業所	40事業所	55事業所	75事業所	100事業所

目標項目 (3)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
コーディネート事業の参加者数	200人	800人	850人	950人	1,100人	1,300人

目標項目 (4)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
就労体験した障がい者の意識の変化	個々の障がい者への聞き取り調査により把握を行う。					

目標項目 (5)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
意識が変化した事業所の割合	73.3%	75%	77%	80%	84%	90%

※数値と併せて、ヒアリング調査の聴き取り内容を整理し、成果や課題などを定性的に示します。

目標項目 (6)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
意識が変化した参加者の割合	76.9%	79%	82%	86%	90%	90%

※数値と併せて、アンケート調査の記述内容を整理し、成果や課題などを定性的に示します。

目標項目 (7)	H26年度 (2月末実績)	年次計画				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
法定雇用率達成企業の割合	52.2%	54%	56%	58.5%	61.5%	61.5%

目標項目 (8)	H25年度 実績	年次計画	
		H29年度	H33年度
障がい者雇用に対する企業の理解度	24.1%	30%	37%

2 若者の雇用支援について（平成27年1月末現在）

(1) 若者と企業のミスマッチの解消

若者の安定的な雇用に向け、若者と企業の就労におけるマッチングを図るため、インターンシップや保護者向けの就職セミナー等を実施しました。

① 企業と若者を結ぶインターンシップ事業

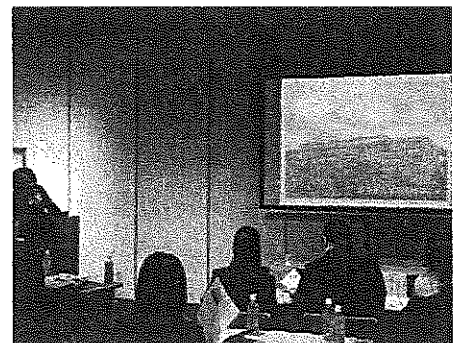
新卒未就職者等の若年求職者を対象に平成26年5月から9月の間の4か月間実施し、73名が受講し、55名が就職しました。

② 保護者向けセミナー

大学生等の保護者を対象に平成26年9月と11月に開催し、36名が参加しました。

③ 企業の魅力発見フェア

平成26年11月のみえリーディング産業展において、企業見学ツアー、合同企業説明会等を開催し、419名が参加しました。



U・Iターンセミナー（三重テラス）

(2) 県内出身大学生等のU・Iターンの促進

三重県での若者の就職を促進するため、首都圏、関西圏の大学生等を対象とした「U・Iターンセミナー」や、県外大学から帰省した学生や県外大学進学者を持つ親を対象に、Uターン相談会を実施しました。

① 県外でのU・Iターンセミナー

東京において、平成26年9月、12月、平成27年2月に開催し、72名が参加しました。また、大阪においては、平成27年2月に開催し、23名が参加しました。

② おしごと広場みえでのUターン相談会

平成26年12月、平成27年1月に開催し、14名が参加しました。

3 女性の再就職支援について（平成27年1月末現在）

(1) 女性の再チャレンジ促進事業

女性の再就職を阻害する要因となっている離職ブランク等を払拭できるよう、働くために必要なスキルアップ研修(座学)とインターンシップを組み合わせた事業を平成26年10月から平成27年1月の4か月間実施し、研修生32名のうち22名が再就職しました。

(2) 女性の再就職支援事業

求職中の女性を対象に、四日市市、伊勢市において、定期相談を実施するとともに、県内商業施設6か所で出張相談会を10回開催し、延べ476名の相談がありました。また、平成26年8月に開設した、女性向け求人・求職サイト(みえじよNAVI)について、現在、86名の女性求職者、275件の求人登録がありました。

さらに、女性の採用を考えている企業とのマッチングを行うため、合同面接会や企業向けセミナーを開催するなど、事業全体を通じて18名が再就職しました。

引き続き就職活動の支援を行っていきます。

4 戦略産業雇用創造プロジェクトについて（平成27年1月末現在）

(1) 取組の概要

県内自動車関連産業において、雇用創造と産業振興を一体的に支援するため、戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会を平成26年3月に設置し、協議会参加企業の協力の下、次の3つのメニューを柱に、総合的に取り組んでいます。

①地域マネジメント強化メニュー

求人企業と求職者のマッチングやものづくりインストラクターによる現場改善支援を行っています。

・自動車関係合同企業説明会 延べ98社、283名参加 など

②事業主向け雇用拡大支援メニュー

企業の試作開発や専門展示会への出展を支援するとともに、高度な加工・評価機器を活用できる環境を整備しています。

・高度加工機等実用・応用講座 延べ128社、186名参加 など

③求職者向け人材育成メニュー

求職者や在職者の能力開発を図り、即戦力となる人材を育成しています。

・製造管理者育成セミナー 延べ307名修了 など

(2) 取組の成果

事業を利用した企業数は、延べ638社となり、421名の雇用が生まれました。

また、企業からは、

「本事業には、多角的な事業拡大と技術の深掘り等のチャンスとの認識で参加している」

「各事業やセミナーへの参加によって、販路の拡大や技術向上の機会が増えたと感じている」

などの意見をいただいています。

(3) 三重県中小企業・小規模企業振興条例に基づく取組について

1 三重県版経営向上計画の認定

三重県版経営向上計画は、条例第 16 条に基づき、県内の中小企業・小規模企業の意欲を引き出すため、事業者の様々な段階に応じて、経営の向上に係る計画を県が認定する制度です。

計画策定の普及のため、県内 5 地域に地域インストラクターを配置し、商工会議所・商工会の経営指導員等と二人三脚となって、三重県版経営向上計画の作成支援やフォローアップなどを行っています。

認定状況については、平成 27 年 2 月末時点で、計 74 件となっています。

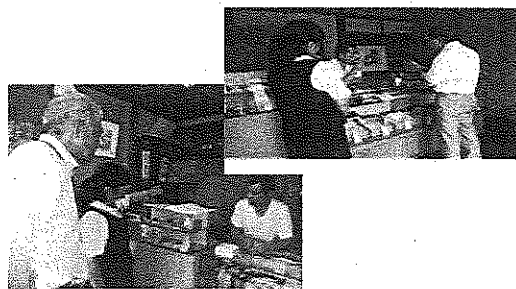
[参考 1 : 三重県版経営向上計画認定状況 (平成 27 年 2 月末時点)]

ステップ区分	認定件数	
		うち小規模企業
ステップ1	23	22
ステップ2	44	40
ステップ3	7	5
合計	74	67

[参考 2 : 認定企業の声 (例)]

- ・ 今まで考えてこなかった企業の今後や従業員の待遇について見つめ直すきっかけとなった。
- ・ 課題の抽出をする中で知的財産保護の必要性が浮き彫りとなった。
- ・ 様々な人達から多くのアドバイスがいただけ、経営に対する新たな認識、理解が深まり、外部への経営内容の説明が明確になった。

[参考 3 : 事業者と地域インストラクターとの打ち合わせの様子]



今後は、認定した三重県版経営向上計画の成功事例をPRするなど、三重県版経営向上計画の一層の普及に努めます。

2 三重県よろず支援拠点

よろず支援拠点は、国が平成 26 年 6 月から各都道府県に設置した相談窓口で、三重県では三重県産業支援センター内に設置されました。センター内で相談対応をするだけでなく、各地域で定期又は随時の出張相談会なども行っています。

平成 27 年 1 月末現在の相談対応件数は 1,232 件（相談者数 586 者）で、その相談内容の内訳は、「①売上拡大」で約 27%、「②補助金関係」が約 12%、「③経営改善」が約 11%と続いています。

今後も、企業の方が気軽に相談に来ていただけるよう、よろず支援拠点のコーディネーターが地域を訪問して出張相談会を行う取組を広げてまいります。

[参考 4：定期相談会]

開催場所	開催日程	備考
四日市商工会議所	毎月 第 2 木曜日午後	平成 26 年 9 月～
松阪商工会議所	毎月 第 3 木曜日午後	平成 26 年 10 月～
伊勢商工会議所	毎月 第 3 火曜日午後	平成 26 年 12 月～
尾鷲商工会議所	偶数月第 2 火曜日午後	平成 27 年 2 月～
名張商工会議所	偶数月第 4 水曜日午後	平成 27 年 2 月～
上野商工会議所	奇数月第 4 水曜日午後	平成 27 年 3 月～

[参考 5：その他の出張相談会等]

名称等	開催日	開催場所
セミナー&個別相談会	平成 26 年 7 月 29 日	四日市商工会議所
	平成 26 年 8 月 29 日	上野商工会議所
	平成 26 年 11 月 6 日	三重県尾鷲庁舎
	平成 26 年 11 月 25 日	伊勢市産業支援センター
	平成 27 年 1 月 28 日	上野商工会議所
	平成 27 年 1 月 29 日	伊勢市産業支援センター
百五銀行出張よろず相談会 in 伊勢	平成 26 年 9 月 12 日	伊勢市産業支援センター
	平成 26 年 9 月 22 日	伊勢市産業支援センター
百五銀行出張よろず相談会 in 桑名	平成 27 年 2 月 6 日	桑名商工会議所
出前相談会	平成 26 年 8 月 28 日	百五銀行波切支店
「なんでも相談会」参加	平成 26 年 10 月 4 日	松阪商工会議所
「なんでも相談会」参加	平成 26 年 11 月 12 日	亀山商工会議所
「みえリーディング産業展 2014」よろず相談窓口	平成 26 年 11 月 14 日	四日市ドーム
	平成 26 年 11 月 15 日	四日市ドーム

3 みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会

平成 26 年 5 月、条例第 23 条に基づき、みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会を立ち上げ、9 月と 12 月には、実務者レベルで構成される分科会を開催しました。

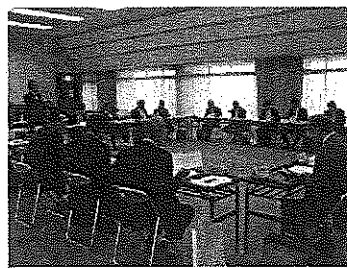
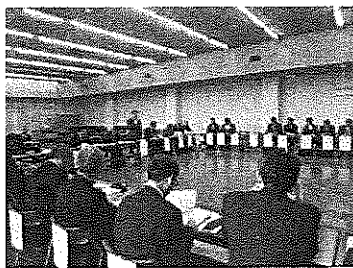
分科会では、国・県・市町などにおける支援策の共有、関係機関同士の連携事例の発表、三重県版経営向上の進捗把握、情報発信体制の検討や地域の中小企業・小規模企業が抱える課題の抽出などを行っています。この結果、地域が連携して中小企業・小規模企業の抱える課題を解決していこうとする機運が高まり、地域課題についての具体策を検討するため、ワーキンググループを設置することになりました。

現在、このワーキンググループでは、「街道を活用した地域内連携」（北勢地域）、「地域全体で取り組む販路拡大」（伊勢志摩地域）、「地域における創業支援体制の構築」（伊賀地域）など、それぞれのテーマについて具体的な取組の検討を行っています。

今後は、このような地域の主体的な動きを受け止め、具体化していくことが重要と考えています。

このため、平成 27 年度は、中小企業・小規模企業地域課題解決プロジェクト支援事業により、ワーキンググループで検討されている、複数団体が協働して取り組む地域課題解決のための具体策について、その進捗に応じ、事業展開を支援してまいります。

[参考 6：みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会分科会 検討風景
(北勢、伊賀)]



4 三重県中小企業・小規模企業振興条例の普及

条例を実効あるものとするためには、まず中小企業・小規模企業に条例および支援施策を知ってもらうことが必要であることから、キックオフ集会の開催、県職員による出前説明をはじめ、商工団体等と連携し、多様な方法により条例の周知・PR活動に取り組んできました。

今後も、条例の一層の普及のため、引き続き、地域インストラクターの活動やよろず支援拠点コーディネーターの出張相談会など、これまでの取組を行うとともに、以下の日程で支援施策説明会（同時開催：よろず相談会）を開催し、三重県中小企業・小規模企業振興条例の普及を図ります。

[支援施策説明会・よろず相談会開催日程]

地域	開催日	場所
北勢	平成 27 年 3 月 18 日（水）	三重県四日市庁舎
中南勢	平成 27 年 3 月 20 日（金）	三重県津庁舎
伊勢志摩	平成 27 年 3 月 23 日（月）	三重県伊勢庁舎
伊賀	平成 27 年 3 月 24 日（火）	三重県伊賀庁舎
東紀州	平成 27 年 3 月 26 日（木）	三重県尾鷲庁舎

(4) 首都圏営業拠点「三重テラス」について

1 トピックス

(1) 年末年始に対応した企画の展開

ショップにおける年末年始に対応した売り場構成、福袋、しめ縄、干支おみくじ等の関連商品の販売、レストランにおける伊勢エビや牡蠣などの旬の食材を使用したメニューやパーティーコースの展開等を実施しました。

また、「冬の贈り物ギフト」として、松阪牛、伊勢エビ、干物等 39 品目のカタログ販売を実施しました。(1月末時点実績：販売数 72 件、売上額 431 千円)

さらに、クリスマスのキャンドルイベントやミニコンサート、年始におけるミカン、伊勢醤油、ぜんざい等のふるまいを実施しました。

これらの取組を実施した結果として、1月の来館者数の対前年比は 111%、2月は 134%となりました。

(2) メディアによる積極的な情報発信

日本テレビ『ぐるぐるナインティナイン グルメチキンレース「ゴチになります!16」』の舞台として、自治体アンテナショップとしては初めて、三重テラスレストランが取り上げられました(放送日：2月5日)。

また、「おもてなし」の心から生まれた商品・サービスを表彰し、国内外に発信する「おもてなしセレクション 2014」に、自治体アンテナショップとしては唯一、三重テラスが選ばれました(2月5日)。

(3) 御嶽噴火・神城(かみしろ)断層地震復興支援の取組

岐阜県・長野県の復興支援の取組として「観光・物産展」を昨年 12 月 24 日に開催するとともに、「復興応援パネル展」を 12 月 29 日～1月5日に開催し、復興応援メッセージ・義援金の募集、長野県アンテナショップとの連携による県産品の販売や試食会等を実施しました。

2 平成 26 年度運営状況(暫定)

夏から秋における「おかげさま祭り」の展開、昨年度落ち込みのあった冬季の対策等に取り組んだ結果、来館者数については順調に推移しています。

ショップにおいては、桜、熊野古道、夏の涼、銘菓街道、年越しなどの季節や歳時にきめ細かに対応した売り場構成、お中元・お歳暮などの贈り物や生鮮品等の需要に対応したカタログギフト販売の実施、試食・試飲等の対面販売の強化、期間限定で青果等を販売するマルシェなどに取り組みました。

レストランにおいては、伊勢エビや牡蠣、松阪牛などの旬や郷土色を生かしたメニュー展開、黒板メニューの提供等に取り組みました。

多目的ホールでは、三重テラス企画の催事をはじめ、県、市町、商工団体等が主催するセミナー、展示、商談会、フォーラムなど、158 件の多彩なイベントを開催しています(1月末現在)。また、ショップやレストランと連動した特産品の紹介やケータリング等も積極的に展開しています。

「三重テラス」の成果を評価する 4 つの指標((1)来館者数、(2)商品開発や販路拡大につながった件数、(3)三重テラスサポート会員数、(4)メディア掲載件数)の状況は次のとおりです。 ※数値はすべて 1 月末現在。

(1) 来館者数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
目標値	11 万人	26.4 万人	29 万人	31.9 万人	35 万人
実績値	27.5 万人	47.4 万人			

(2) 商品開発や販路拡大につながった件数（累計）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
目標値	10件	50件	90件	130件	170件
実績値	38件	66件			

(3) 三重テラスサポート会員数（累計）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
目標値	1,350人	4,490人	7,890人	11,580人	15,580人
実績値	1,359人	4,038人			

(4) メディア掲載件数

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
目標値	30件	30件	30件	30件	30件
実績値	89件	56件			

○ アドバイザリーボードの意見

2月16日に「三重テラス運営にかかるアドバイザリーボード」を開催し、成果指標や運営状況に関する評価・助言をいただきました。

① 成果指標に関する意見

- ・ イベント運営等において質の高い情報を継続して発信しており、後発アンテナショップのモデルケースとしても注目されるなど、成果指標の数値だけではない質的な面においても評価できる。
- ・ 来館者数については、一般的にオープン時がピークで、特段の対策がなければ右肩下がりになる。現状の水準を維持するだけでも大変な労力を要する。
- ・ 「三重の応援団」や「ショップカード会員」などのサポート会員数を右肩上がりに増やしていくのは非常に難しい。むしろ既存会員の帰属意識やメリットを高めていく取組に注力していくことが求められる。

② 今後の運営方向に関する意見

- ・ 「三重テラス」は、三重の「食」や「文化」などのテーマを通じた「三重のプラットフォーム」であるべき。市場競争の観点だけではなく、ここを舞台として三重に関わる人々が集い、交流し、新しい発見が生まれる場としての「三重テラス」の存在意義や将来価値を意識した取組が必要である。
- ・ イベント運営に関して、三重県に関心がない人にも興味を持ってもらえるよう、テーマを明確にした打ち出しにより、関心の間口を広げる工夫が必要である。
- ・ 「お伊勢さん」の情報ニーズは依然として高い。コンテンツの充実やメディア向けの戦略的な情報発信が必要である。

3 平成27年度運営方針（方向性）

これまでの「三重テラス」の取組の成果や課題をふまえて、4つの指標の数値目標の達成と質的な改善をめざし、次の運営方針のもとに事業展開します。

(1) 効果的な情報発信による訴求力の向上

- ① 「食・文化」を重点テーマとし、テーマ性を持った企画の展開
- ② リピーターや目的客の確保に向けた対策の実施
- ③ 海外への情報発信や外国人観光客をターゲットとした対応の推進

(2) 県内企業・事業者のチャレンジ支援

- ① 魅力ある商品の発掘・出品・ブラッシュアップの支援
- ② テーマ性を持った商談会や応援店舗等への営業活動を通じた販路拡大

(3) 首都圏ネットワークの拡大と連携

- ① ネットワークと三重ファン層の拡大および会員との親密な関係性の構築
- ② 日本橋地域の団体や他のアンテナショップとの相互連携による発信力強化

(4) 戦略的な広報活動の充実

- ① ターゲットを明確化したメディアへの情報提供や、情報発信力の高い媒体、人、手法による戦略的な情報発信の強化

(5) 市町・商工団体等関係団体との連携の強化

4 成果指標の目標数値の見直しについて

(1) 来館者数

今年度の実績等を踏まえ、目標数値を次のとおり修正します。

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
目標値	11 万人	26.4 万人	29 万人	31.9 万人	35 万人
実績値	27.5 万人	47.4 万人 (1 月)			
見直し案		〔 予測値として 56 万人 〕	58 万人	59 万人	60 万人

平成 27 年度は、季節や社会行事に対応したテーマ設定を行った企画の実施や、夏の 100 万人達成記念、秋のオープン 2 周年記念イベントを中心として集客の強化に努め、来館者数 58 万人の達成をめざします。そして、最終年度である平成 29 年度に 60 万人の達成をめざします。

(2) 三重テラスサポート会員数 (累計)

来館者数の目標数値の上方修正及びリピーターの要素を加味し、目標数値を次のとおり修正します。

なお、オープン 3 年目を迎えるにあたり、会員数の拡大だけでなく、各会員との関係強化や三重テラスに関わる人々のネットワーク体制づくりなど、質的な活動の充実に取り組みます。

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
目標値	1,350 人	4,490 人	7,890 人	11,580 人	15,580 人
実績値	1,359 人	4,038 人 (1 月)			
見直し案		〔 予測値として 4,500 人 〕	7,020 人	9,585 人	12,185 人

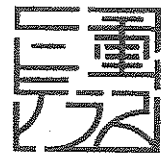
【数値設定の考え方】

- ・ ショップカード会員数の設定根拠となる「来館者数」を、リピーターを除外した「新規来館者数」に見直し、「新規来館者数」の 1% とする。

なお、平成 26 年度の確定的な実績報告については、平成 26 年 4 月末に運営事業者から提出される「年間業務報告書」の実績をふまえてその評価を行い、6 月会議において公表します。

三重テラスの運営状況について(12月~2月)

- ・ オープン以降の来館者数累計は 795,575人(平成27年2月末現在)です。
- ・ ショップ、レストラン、多目的ホールにおいて、三重の旬の魅力や季節行事・イベントに対応した旬の情報を発信し、三重への誘客や販路拡大につながる取組を展開しています。



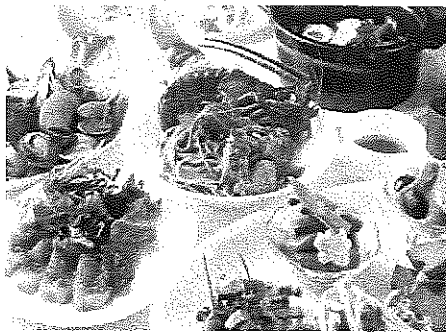
MIE TERRACE

TOPICS

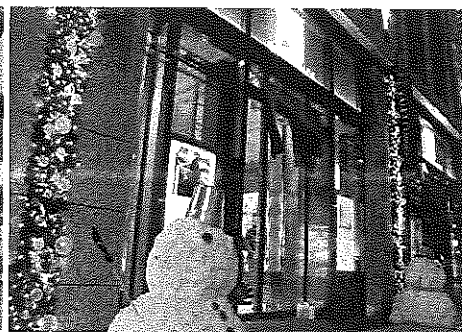
日本テレビ「ゴチになります」に取り上げられました！

日本テレビ『ぐるぐるナインティナイン グルメチキンレース「ゴチになります！16」』の舞台として、三重テラスレストランが取り上げられました。首都圏にあるアンテナショップとしては「初」の登場となります。(放送日:2月5日)

また、「おもてなし」の心から生まれた商品・サービスを表彰し、国内外に発信する「おもてなしセレクション2014」に、自治体アンテナショップとしては唯一、三重テラスが選ばれました。(2月5日)



パーティーメニュー(イメージ)



長野県との連携により作成した雪だるま

多目的ホール



- 女性記者・編集者等限定セミナー「齋宮へのいざない」(12月12日)
- 女性記者等を対象に齋王の歴史や平安装束の試着、相可高校村林先生調理の特製かす汁のふるまい等を実施【35名来場】



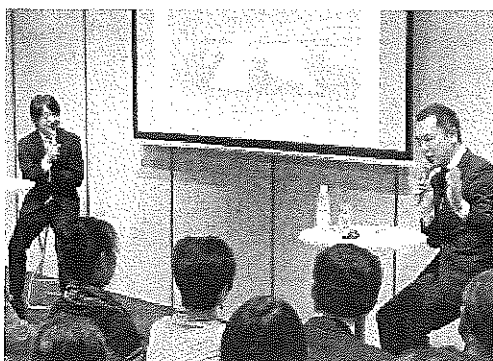
- キャンドルづくりワークショップ&クリスマスLIVE(12月23日)
- お子さまも参加していただける簡単なキャンドルづくりのワークショップや、ハーブとフルーツによるクリスマスソングのライブを開催【390名来場】



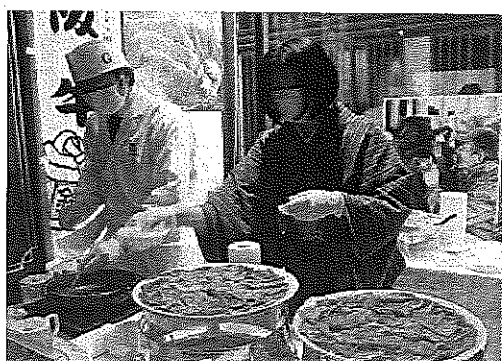
- 長野県・岐阜県・三重県連携御嶽山噴火・長野県神城断層地震復興応援観光・物産展(12月24日)
- 岐阜県、長野県の復興応援メッセージ、義捐金募集、観光物産展等を実施【580名来場】



- 新年のおすそわけ(1月2日~6日)
- 「新年のおすそわけ」として、年始に来館者へのみかん、ベビースター妖怪ラーメン、伊勢醤油、ぜんざいなどのふるまいを実施【期間中の総来館者数:11,788名】



- 「COOL MIE トークライブ」(1月22日)
- 元F1レーサーの片山右京さんをゲストに迎え、「夢への挑戦」をテーマにトークライブを開催【80名来場】



- 伊勢松阪商人と近江商人(2月19~20日)
- 近江商人ゆかりの町連絡会と連携し、松阪木綿の糸紡ぎ実演、近江の麻・近江ちぢみ手もみ実演や、松阪牛、近江牛の試食などを実施【410名来場】

TOPICS

ショップ

- 冬のカタログギフトの申込受付の実施(松阪牛、伊賀牛、伊勢エビ、干物、伊賀焼土鍋等39品目)
- 対面による試食販売の定期的な実施(地酒、出汁等)
- 2階イベントとの連携強化。POPを活用した主催市町の商品紹介や試食販売、イベント告知
- 店外催事の実施
年瀬マルシェ日本橋(12/27~29)

【12月】

- 年末年始に向けた売り場構成。温かい鍋物コーナーの設置や、しめ縄、カレンダー等の販売
- 袋詰め早生みかんの販売
- 伊勢うどん大使による伊勢うどん(チルド)の販売(12/27)

【1月】

- 新しいのぼり掲出による、中央通りからの認知度向上
- 福袋、お正月関連商品(しめ縄、おみくじ入り干支等)の販売
- 売り場構成の変更(松阪牛関連商品をメインとした棚づくり)
- バレンタイン向けの商品(チョコレート)販売

【2月】

- 対面による試食販売の実施(2月中旬から3月上旬の土・日、伊勢うどん、ソマカツオの塩切等7品目)
- 日本橋アンテナショップ4館共通プレゼントキャンペーンの実施(ショップ・レストラン共通、2/21~3/15)

レストラン

【12月】

- 伊勢海老、松阪牛などの食材を使用したパーティプランの展開
- 応援企業等へのパーティプラン利用促進PR
- 特別ランチメニュー「伊勢美稲穂と飯高町 洞窟キノコのトマトソースとろーりモッツアレチーズのオープン焼き新米！三重県産米“結びの神”の実施
- クリスマス特別メニュー等の展開(12/19~25)
- クリスマスキャンドルナイトの開催。フルーツのミニコンサートの実施(12/23)

【1月】

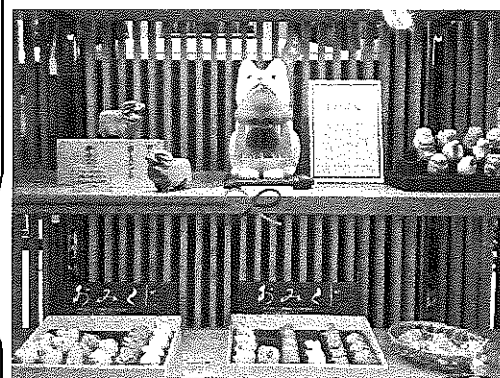
- YUITO PLUS+読者向け、スパークリングワインサービス、ケーキセットプランの提供(1/20~3/5)

【2月】

- 「ゴチになります！」記念メニューの提供



冬のカタログギフト(イメージ)



お正月関連商品の陳列



クリスマスキャンドルナイト ミニコンサート

DATA

1. 来館者状況

(単位:人)

	H25.9~H26.3	H26.4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	累計
ショップ	227,655	46,894	62,688	35,963	38,047	37,716	36,974	43,024	35,581	29,602	35,494	38,536	668,174
レストラン	17,033	3,015	4,025	3,173	3,139	3,489	2,924	2,544	2,468	2,298	2,315	2,438	48,861
多目的ホール	30,555	3,065	5,015	2,840	3,990	3,275	3,240	7,175	3,675	4,070	6,570	5,070	78,540
合計	275,243	52,974	71,728	41,976	45,176	44,480	43,138	52,743	41,724	35,970	44,379	46,044	795,575
一日当たり平均	1,521	1,766	2,314	1,399	1,457	1,435	1,438	1,701	1,391	1,240	1,530	1,644	1,557

2. 売上状況

(単位:千円)

	H25.9~H26.3	H26.4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	累計
ショップ	60,616	8,656	11,866	7,677	7,840	7,380	8,041	8,464	8,241	8,377	7,627	8,803	153,588
レストラン	46,030	7,231	9,677	8,025	8,080	8,765	7,326	7,799	6,729	7,412	6,353	8,818	132,245
合計	106,646	15,886	21,544	15,702	15,920	16,145	15,368	16,263	14,970	15,789	13,980	17,622	285,833
一日当たり平均	589	530	695	523	514	521	512	525	499	544	482	629	559

※ 速報値であり、今後修正が生じる可能性があります。

(5) 食の産業振興について

1. ミラノ国際博覧会

(1) 三重県出展事業の概要

ミラノ国際博覧会は、本年5月1日から10月31日までの184日間にわたり、「地球に食料を、生命にエネルギーを」テーマで開催され、三重県は、7月1日から4日の4日間、日本館イベント広場に出展します。また、ミラノ市内において、食の産業の関係者や消費者に対して、インバウンドや販路開拓につながる取組を行います。

(2) ミラノ国際博覧会日本館イベント広場への出展

三重県が育んできた食文化を五感で体験できる、「茶室」、「祈り」、「香り」、「体験」をテーマにした4つの空間を用意します。

「茶室」：お茶やお酒を味わったり、淹れ方を楽しんだりする体験

「祈り」：歴史的に培われた三重の食文化や、最先端を行く食品加工技術など、三重の魅力伝える映像の上映

「香り」：三重の自然などをイメージした香りが舞う空間で「食と祈り」の歴史的ストーリーの写真やパネルの展示

「体験」：イベントやワークショップを通じた文化の体験

三重の本質を理解し、興味を持ってもらい、ミラノ市内事業へと足を運んでいただけるよう、ゲートウェイとして機能させていきたいと考えています。

(3) ミラノ市内事業の開催

ミラノ市の中心部にあり、食の業界関係者など、日頃から多くの人びとで賑わうコミュニティレストラン「アン ポスト ア ミラノ」において、レセプションやテストマーケティングを行います。

○レセプション

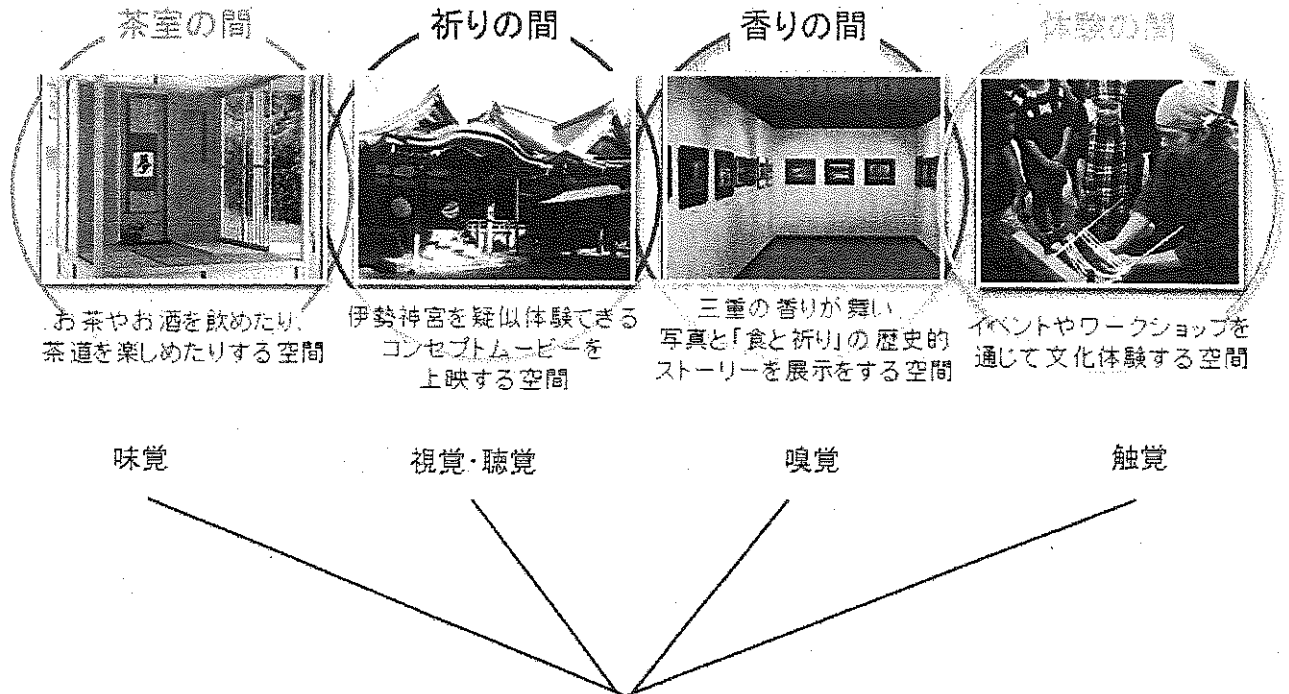
博覧会会場出展初日の7月1日、飲食事業関係者等に対して、三重の食や伝統工芸品等のPR等を行います。

○テストマーケティング

6月24日から7月7日の14日間に渡り、「三重ウィーク」と銘打ち、三重県産品のテストマーケティングをはじめ、食文化体験イベントや地域の食を学ぶエデュケーションプログラム、会場内のバーでの三重の地酒の提供など、様々なイベントを開催し、インバウンドや販路開拓につなげていきたいと考えています。

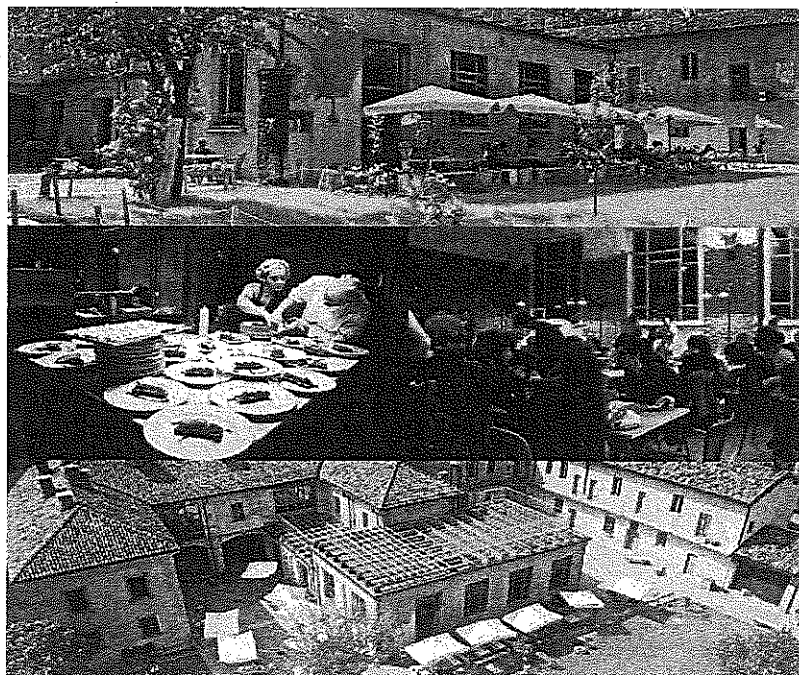
(参考)

・「茶室」、「祈り」、「香り」、「体験」をテーマにした4つの空間イメージ



三重県が育てて来た食文化を五感で体験できるプログラム

・ミラノ市内会場 (Un Posto a Milano (アン ポスト ア ミラノ))
築 400 年の建物をミラノ市が買い取ったミラノ市内にあるコミュニティレストラン。



2. ワールド・オブ・フレーバー

(1) ワールド・オブ・フレーバーの概要

アメリカで唯一、料理の学位を取得できる大学であるCIA (The Culinary Institute of America) (カリフォルニア州ナパ・バレー) で開催される、アメリカで最も影響力のある食の国際会議であり、平成27年は「アジア」をテーマに4月22日(水)から24日(金)の3日間開催されます。

本会議には、意識の高いオーナーシェフ、ホテル・レストランの料理長、製造・販売業者やメディア関係者など約750名が集まることから、三重県として本会議に参加し、三重の食をPRするとともに、販路拡大につなげていきます。

(2) 三重県の参加概要

三重県として立食形式の試食ブースを設置し、参加者に対して三重の食材を使った料理の提供を行います。その際、三重の食や商取引に詳しいコーディネーターを参加させ、参加者とのネットワークを構築し、参加後の県内事業者の販路開拓につなげます。

また、県内教育機関の関係者(相可高校食物調理科 村林新吾教諭)も参加することで、この場で得られた経験を、高校生など若い世代の料理人教育に活かすとともに、三重県とCIAとの将来的な人材交流のきっかけとしていきます。

(参考) ワールド・オブ・フレーバー マーケットプレイス (試食ブース) のイメージ



3 食の産業振興の取組の方向性

(1) 現在、農林水産部と連携して、今後の食の産業振興の取組の方向性を示した「みえ食の産業振興ビジョン」を策定しているところです。

(策定趣旨)

- ・豊かな食材や多様な食文化を背景に高いポテンシャルを有する三重県の食関連産業は、農林水産業・製造業・サービス業が関わる裾野の広い産業であり、多くの県民の「働く場」を提供している。
- ・本県は、「『食』で拓く地域活性化」をテーマに、国の地域再生法に基づく地域再生計画の認定を受けた（平成27年1月）。
- ・今後、本県の食の産業振興の方向性を定めた「みえ食の産業振興ビジョン」に基づき、集中的に施策を展開していくこととする。

(みえ食の産業振興ビジョンの構成案)

- ・第1章 三重の食が持つポテンシャル
 - －三重の食のバックグラウンド～歴史、風土、文化など～
 - －食関連産業の裾野の広さ（1次産業、2次産業、3次産業）
 - －教育・研究機関
- ・第2章 食の産業を取り巻く環境の変化
 - －伸びない国内市場 ー拡大する世界の食の市場 ー情報通信技術の進展
- ・第3章 食の産業振興の目指すべき姿
 - －三重県の食関連産業のブランド力を向上させ、食関連事業者の所得向上・事業継続を目指す。
 - －1次産業から2次産業、3次産業までの食関連産業がそれぞれ付加価値を高める（人材育成、商品開発等）とともに、様々な形で互いに連携し、新たな価値を創出していく。合わせて、三重の食関連産業を積極的に国内外へ発信し、国内外観光客の取り込み、県外・海外への市場を獲得していく。
- ・第4章 今後の取組の方向性
 - －多様な連携（つながり）を生み出す仕組みづくり
 - －食関連産業の人材の育成 ー商品開発
 - －素材（農林水産品）の磨き上げ ー農林水産業への新規参入の促進
 - －三重の食の海外発信 ー戦略的な国内情報発信
 - －販路開拓支援

(2) 県内の食に関わる関係者と認識を共有し、オール三重で「食の産業振興」を推進するため、下記の日程で「みえ食の産業振興シンポジウム」を開催します。

- ・日時：平成27年3月18日（水） 12：30～15：00
- ・場所：アストホール（津市羽所町700 アスト津4階）

(6) 「みえ産業振興戦略」について

1 「『みえ産業振興戦略』アドバイザーボード」の開催

(1) 平成 26 年度第 3 回会議の開催

平成 26 年 12 月 20 日（土）、『みえ産業振興戦略』アドバイザーボードを開催し、策定後 2 年経過した「みえ産業振興戦略」の改訂に向けた議論を行いました。

(2) 各委員からの意見の概要（平成 26 年度第 3 回）

【基本的な考え】

- ・今後の日本を考えていくにあたっては、日本の近代を根底から考えることが重要。例えば、本居宣長は江戸時代に日本の知恵を掘り下げており、本居宣長を掘り下げることが、三重を掘り下げることにつながる。

【産業振興全般】

- ・人口が 1966 年に 1 億人を超えて以降、日本のビジネスモデルは、3 千万人が増えることを前提として成り立ってきたが、今後は 3 千万人が減ることを前提としていかなければならない。

【コンビナート・北勢地域のものづくり】

- ・産業競争力強化法による、石油精製、石油化学産業界の再編が進もうとしている。また、製造業の縮小も懸念される中、四日市コンビナートを中心とする地域の再生ビジョンの構築が必要となっている。
- ・半導体事業が三重県で継続していくかについては注視が必要。他県も積極的に誘致活動を行っており、危機感を持つべき。

【サービス産業】

- ・日本は、工業生産力モデルの優等生であるが、工業生産力モデルに当てはまらないシンガポールの一人当たり GDP に及ばない。脱・工業生産力モデルを考えるべきではないか。
その意味で、経済人を三重県に呼び込むインダストリアルツアーなど、観光に関しても新たな視点が必要。

【人材育成】

- ・県立工業、実業高校の専攻科設置を実現すべき。県内企業の人材確保や人口流出の解決にもつながる。

【企業誘致】

- ・企業誘致に関しては、単発の補助金よりも、継続的な税制優遇の方がメリットとなる。本社機能の移転に対する税制優遇措置など、国の動向を確認しながら、新たな制度設計を検討する必要がある。

(3) 今後の取組方向

「みえ産業振興戦略アドバイザーボード」での意見を踏まえ、平成 27 年 8 月を目途に「みえ産業振興戦略」の改訂を行います。その際、改訂と同時に具体的なプロジェクトが組成するよう、プレイヤーとなる企業・団体等を巻き込んだ分科会等を設置して検討を進めます。